

テーマ：「第4次産業革命 DX という
『羅針盤』が誘う未来社会のシステム」

講師：白坂成功氏（慶應義塾大学大学院システム
デザイン・マネジメント研究科 委員長 教授）

日程：2024年11月28日



デジタル技術とDXの進展により社会構造は大きく変化しており、イノベーションの実現には新たな視点が求められています。人間の認知にはバイアスがあり、専門性が高まるほど発想が固定化するため、多様な人材の協働が不可欠ですが、単に背景が異なる人を集めてチームを組成するだけでは協働は難しく、各々の力をチームの中で引き出す方法論が重要です。

技術革新を理解する枠組みとして、目的、手段、その活用方法を一体で考える必要があります。デジタル化による単なる置き換えがデジタイゼーションであるのに対し、新しい目的そのものを生み出すのがDXです。（図1）

そのためには、新技術を理解し、それを生かした仕組み設計と到達可能な目標設定を同時に行う能力が求められます。こうした変化の中で、Society5.0ではサイバー空間と現実空間が高度に連携し、システム同士が自律的に統合されることで新たな産業や価値が生まれます。産業はレイヤー構造化し、非競争領域のプラットフォーム化やマッチングによって業務やビジネスモデルが再構築されます。

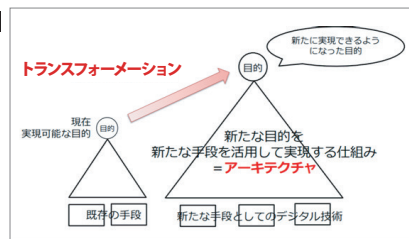
さらに宇宙分野でも低コスト化と技術進化により民間ビジネスが拡大し、新たな市場が形成されています。

一方で、技術主導の変革だけでは不十分であり、常に人間中心の視点が重要です。エレベーター待ちという「やることが無い」時間を、モニターを見て情報を収集する時間と再定義する例のように、問題の本質を見極め、価値を再付加することで新たな価値創出が可能になります。（図2）

最終的には、テクノロジーと多様性を活かしつつ、人々のウェルビーイングを高める社会設計が求められています。

広島県生まれ。東京大学大学院修了後、三菱電機株式会社にて宇宙開発に従事し、宇宙ステーション補給機や欧州宇宙機関向けの開発等へ参加。内閣府革新的研究開発推進プログラムのマネージャーを経て、2017年度より慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント(SDM)研究科教授。主な著書に『システム×デザイン思考で世界を変える慶應SDM「イノベーションのつくり方」』（日経BP社）、『価値創出を促す人材の育成コトづくりとヒトづくり』（東京電機大学出版）

図1



技術を活用したトランスフォーメーション

図2

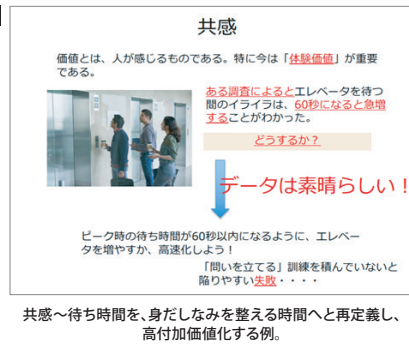


図1及び2：慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 委員長 教授 白坂成功氏